

学会トピックス

日本医工学治療学会第31回学術大会参加印象記

峰 島 三 千 男

東京女子医科大学臨床工学科

去る平成27年3月27日(金)~29日(日)、広島国際会議場において日本医工学治療学会第31回学術大会が末田泰二郎(広島大学大学院医歯薬保健学研究院外科学)大会長の下開催された。テーマは「医工学治療の現状と近未来」であった。大会記念講演、特別講演、大会長講演、シンポジウムなど興味あるセッションが目白押しであった。一方、要望演題、一般演題も多数企画され、こちらは若手研究者を中心とした熱い議論が交わされた。また、末田大会長が心臓血管外科を専門とされていることもあり、日本体外循環技術医学会主催の体外循環技術認定士セミナーが本大会中に開催され、認定技士資格申請ならびに更新条件を満足していることもありこの分野の臨床工学技士が多数参加し、盛会であった。

アフェリシスに関連する演題から、筆者が印象に残ったものを以下に紹介する(以下敬称略)。

(1) シンポジウム5 血液浄化の現状と近未来
司会: 松田兼一(山梨大学医学部救急集中治療医学講座)、織田成人(千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学)

1) 志賀英敏(帝京大学ちば総合医療センター救急集中治療センター): 新規サイトカイン吸着フィルタ(AN69ST)を用いた多施設臨床治験評価の結果を報告した。AN69ST膜CHDFは従来のPMMA膜CHDFに比べ有意に生存率が向上したとのことであり、その後商品として上市され臨床使用されているとのことであった。

2) 馬場彰泰(北里研究所病院循環器内科): 心不全アフェリシス治療の薬事承認への挑戦と題して講演された。それによると心不全に対するアフェリシス治療の治験は終了したが、残念ながらPMDAの判断で薬事承認の可能性が低い状況とのことであった。但し、今後新しい別の臨床研究によって臨床的有用性が明らか

かとなれば、再度薬事申請の可能性があるとのことであった。新しい適用へ向け、その進展が期待される。

3) 小久保謙一(北里大学大学院医療系研究科/北里大学医療衛生学部医療工学科): 急性血液浄化用の長時間連続使用可能な血液浄化器の開発について、その研究内容が報告された。中空糸内径が現在主流の半分程度であり、圧力損失を極端に抑えた斬新な設計がなされていた。これにより血小板活性化や血液凝固を抑えた濾過器の開発が可能であり、将来の植込型血液濾過器に通じる開発とのことであった。

4) 山本健一郎(東京女子医科大学臨床工学科): 遠心ポンプを用いた新規血液浄化装置の開発と内容で発表がなされ、ECUM等に用いる新規小型遠心ポンプからなる新しい血液浄化装置の開発状況について報告された。同装置は今後災害等の緊急用としても利用可能とのことであった。

(2) よくわかる講座10 座長: 佐藤元美(独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院腎・透析科)

小林修三(湘南鎌倉総合病院腎臓病総合医療センター): LDLアフェリシスの基礎について分かりやすい講義がなされた。また、難治性高コレステロール血症に伴って重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症の患者に対するLDLアフェリシスについて、先進医療の新規保険収載をめざしているとの内容が披露された。

(3) 要望演題、一般演題

アフェリシス関連演題がいくつか報告された。

相馬 泉(東京女子医科大学臨床工学部)らは急性血液浄化療法で用いられる浄化器について、患者の疾患や病態に応じた使い分けについて私見を提示した。

塚本 功(埼玉医科大学国際医療センター)らは、持続的腎機能代替療法に用いられる濾過器血液流入部の改良によって濾過器のlife-timeが延長するかについて従来品と比較したが、有意な差は得られなかった

とのことであった。

佐藤元美（独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院腎・透析科）らは末梢動脈疾患治療における反復的 LDL アフェレシス治療の有用性について報告されたが、血管内治療、栄養療法、運動療法などとの包括的な治療の重要性を強調した。

石岡邦啓（湘南鎌倉総合病院腎臓病総合医療センター腎免疫血管内科）らは透析導入期慢性腎臓病患者における末梢動脈疾患について ABI と SPP を用いた評価について報告され、早期治療介入の重要性について言及した。

また同氏らはトロンビン製剤を機に発症した後天性凝固因子欠乏症の患者に対して、血漿交換とステロイド治療が著効した貴重な症例を報告した。

*

本学会は医工学技術の臨床応用に関する学術発表を対象とし、その範囲は循環系、代謝系、呼吸器系など多岐にわたる。その特長の1つは自分の領域とは異なる専門家と討論できる点にある。思わぬ質問やコメントから研究推進のためのヒントを得ることも少なくない。今大会は参加者にとって興味ある企画が特に多数なされており、大会長の末田泰二郎先生をはじめスタッフの先生方のご苦勞に感謝申し上げる次第である。

日本医工学治療学会第32回学術大会は山梨大学医学部救急集中治療医学講座の松田兼一先生が大会長を務められ、平成28年3月18日(金)～21日(日)、甲府富士屋ホテルで開催されるとのことである。アフェレシス関連の多数の演題応募を期待したい。